

彼らは赤黒色の戦争を知らない

沖縄県立読谷高等学校三年 松田 未空

目の前が赤黒色になった
おまけに息ができないくらいひどい匂い
私の自慢の真っ赤なスカートも
赤黒色に汚れちゃった
でも大丈夫
朝が来たらこけし頭のかわいこちゃん
私にシャワーを浴びせてくれるから
朝になってもかわいこちゃんは来ない

何かあったのかしら

耳障りな音が増えた
海からも空からも陸からも
ヒューン、ドドドン、バンバン、ギャー
このひどい歌は一体なんだ
皆俺の歌よりこんな歌が好きなのか
隣の家のおしやれ好きのハイビスカスも
自慢のスカートを赤黒色に染めている
俺の歌が大好きな兄ちゃんも来なくなった

何かあったのか

大きな鳥が飛んでいる
あの子は黒い空を低く飛ぶのが好きみたい
私は青い空を高く、高く飛ぶのが好き
最近はずっとさとうきび畑の歌を聞く散歩道が好き
そこにはいつもお兄さんがいた
でもお兄さんはあの大きな鳥に乗って
遠くの黒い空に行っちゃった
お兄さんは青い空が好きだって言ってた
さっと黒い空を好きになったのね

何かあったのかしら
あちこちから赤いものが迫ってきました
サメよりも大きい魚が来てから変です
僕はその赤いものから必死に逃げていました
でも僕はいつの間にか赤の中にいました
上を見ると、空を自由に飛んでいた白い鳥も
今では赤い大きな鳥になっていました
毎日僕たちのことを捕まえようとしていた
坊主たちの顔も、もう何日も見ていません
何かあったのでしょうか

誰も知らない
沖縄で何があったのか

ハイビスカスは知らない
こけし頭のかわいこちゃんは
自分の手も見えない真っ黒なガマの中で
沢山の人の悲鳴を聞いたことを
お母さんの手と涙の中で亡くなったことを
そのガマは水が一滴落ちる音が聞こえるほど
静かな終わりを迎えたことを

さとうきびは知らない
そのひどい歌は人間の叫びだと
悲鳴、赤ん坊の泣き声、足音、草が揺れる音、
風の音色、恐怖が奏でる叫びの歌だと
人は歌を忘れ、声を忘れ、音を恐れていた

サギは知らない
その大きな鳥は黒い空に紛れ
沢山の命を奪ったことを
お兄さんは青い空を取り戻すため
片道切符の大きな鳥に乗ったことを

青い魚は知らない
君の小さな青色が希望になるほど
大きな赤い海がそこにはあったことを
坊主たちが、例え死が待つ明日でも
生きることを選び続けたことを

誰も知らない
沖縄で何があったのか

でもハイビスカスは思った
太陽に照らされ、汚れたスカートは
綺麗なシャワーで洗い流す方が幸せだと
さとうきびは思った
こんなひどい歌じゃなくて
もっと優しい歌を遠くまで届けたいと

サギは思った
やっぱり青い空を高く、高く飛びたいと

青い魚は思った
やっぱり海は僕と同じ青い海がいいと
どこまでも広く、深く続く青がいいと

誰も知らない
沖縄でも何があったのか
でも彼らが見てきた
日常が壊れ、赤黒く染まった戦争を
青い空、青い魚の泳ぐ青い海があり、
赤いハイビスカスの隣でさとうきびが
優しく歌う今を

だから私たちは知ることができる
沖縄にあるすべてのものから
赤黒色の戦争と青色の平和を

彼らは赤黒色の戦争を知らない
でも彼らは青色の平和を知っている
私たちは知らなければならぬ
赤黒色の戦争を
この青色の平和を繋ぐために